

議長定例記者会見 会見録

日時：令和7年12月24日 10時30分～
場所：全員協議会室

1 発表事項

- 2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を発表します

2 質疑項目

- 2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」について
- 1年の振り返りと来年の抱負
- 今年の漢字
- 11月定例月会議の振り返り
- 県への新年度予算編成に関する会派要望について

1 発表事項

- 2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を発表します
(議長) おはようございます。ただ今から12月の議長定例記者会見を開催させていただきます。本日は、発表事項が一つございます。2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を発表させていただきます。お手元の資料、発表事項1をご覧ください。「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」は、県議会の活動内容を広く発信することで、県民の皆さんに県議会への関心を持っていただくとともに、参加意識を高めていただけるよう、県議会のホームページやe-モニター等を活用して、県民の皆さんに投票いただき、これらを参考に毎年選定・発表しているものであります。最初に、今回投票いただいた皆さん、本当にありがとうございました。また、報道機関の皆さんには、PR等ご協力をいただき、ありがとうございました。まずもって、お札を申し上げます。選定にあたっては、副議長とも相談をし、3ページの投票結果を踏まえ、県民の皆さんや議員の皆さんから得票の多かった上位10項目を選定をいたしました。今回最も得票数が多かったのは、No.7の「物価高騰や米国の関税措置による影響に対応するための予算を決定」です。No.12の「物価高騰及び賃金上昇に対応するための医療機関等への経営支援及び診療報酬の改定を求める意見書案を全会一致で可決」にも多くの投票をいただいていることから、やはり、昨今の物価高騰が県民生活に与える影響は大きく、県民の皆さまの関心が高いということだと思います。引き続き、議会といたしましても、しっかりと取り組んでいきます。また、No.15「『海』の課題解決に向けて分野横断的な議論・独自の政策提言へ」も多くなっています。11月に開催されました「第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～」には、天皇皇后両陛下にもご臨席賜り、県民の皆さんに、

海という共通の財産が重要視され、関心が高まったのではないかと思っております。豊かで美しい三重の海づくり調査特別委員会では、今後、知事への提言や国への意見書の提出に向けて、引き続き、議論を深めていただきたいと考えております。来年も議会が一丸となって、県民の皆さまからの負託に全力で応え、県民福祉の向上等に向けた活動を展開してまいります。発表事項は、以上のとおりでございます。

2 質疑項目

○ 2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」について

(記者) 幹事社からお尋ねします。その中で特に議長として、印象的であったことを挙げていただくとしたらいかがでしょうか。

(議長) 私としては今述べさせていただきました、海の課題解決に向けての分野横断的な議論、独自の政策提言ということでございます。No. 15でございますが、やはり天皇皇后両陛下が三重県の地にご臨席を賜りまして、この2日間天皇皇后両陛下の随行をさせていただいて、私としては誇りに思いますし、良い経験をさせていただいたと。今後はこの三重県の海を、豊かな海をつくっていかなければいけないという思いがございましたものですから、今回は、それが一番私は印象に残っております。

(記者) 森野副議長いかがでしょうか。

(副議長) 私は4番のみえ現場 de 県議会ですかね。10月に四日市大学で開催した防災の関係のが非常によかったので印象に残っておりますし、2回目もまた予定しておりますので、しっかりと取り組んでいきたいなという思いも含めて、これを推させていただきたいと思います。

(記者) 投票者数ですけれども、昨年は1,234人でよかったです。そうすると、若干は増えた、9人だけ増えたのかなと思いますけど、この投票者数はどのように受け止めておられますか。もう少し周知が必要だとか、目標はどれぐらいだとか、何かこう投票者数への受け止めございますか。

(議長) 去年と比べての投票者数がどうかということでございますが、今回、投票者総数は1,243人ということあります。昨年から9人の増となりました。今後も、より多くの県民の皆さんに投票いただけるよう、日頃からの積極的な情報発信に努めていく必要があると考えております。

(記者) 発表項目で質問あればお願ひします。

(記者) ちょっと事務的なもので申し訳ないんですけど、これはいずれも複数回答で投票していただいたという理解でよろしいですか。

(議長) はい。そのように、受け取っていただければありがたいと思います。

(記者) 上限とかは特になく、22項目全部選んでもいいし、1項目だけでもいいということで。

(議長) 事務局お願いします。

(事務局) 10項目の制限を付けております。

(記者) 10項目までということですね。

(事務局) そうです。

(記者) あともう一つなんんですけど、この結果を見ていると、議員さんが上位に選ばれたものと、一般の方々が上位に選んだものとも結構違いもあって、面白くなと思ったんですけどそのあたりどういうふうに受け止めていらっしゃいますか。

(議長) 議員が選んだものと、県民の方が選ばれた、この項目に関しては、非常に物価高とか、そういうたところの関係もございますし、やはり議員の関心と、議会での関心と、県民が考えておられる関心というものに少し違いがあるんだなと思っています。結果をずっと見させていただいて、なるほど、やはりわれわれも県民の意見をこれからもしっかりと議会の議員としても考えていかなきやいけないんだなということも反省をして、反省というのはおかしいんですが、そのように考えております。

○ 1年の振り返りと来年の抱負

(記者) よろしいでしょうか。発表項目以外で、それでしたらお尋ねさせていただきます。

(議長) お願いします。

(記者) 今年最後の記者会見となりますね。

(議長) はい。

(記者) ということで、この1年いろいろあったかと思いますけど、議長として振り返りがあればお願ひいたします。

(議長) 全体のあれですね。私、就任して、5月から、この今の12月までということで約7ヶ月過ぎたわけでございますが、印象に残っていることは、やっぱり先ほどもお話をさせていただきました、三重県が、海を中心にして、天皇皇后両陛下が、ご臨席をいただいての開催をできたこと。これがやはり一番私としては、印象に残っております。それと、県議会の中で、故三谷議員、そしてまた、故平畠議員が、現職のうちに亡くなりになられたというところで、三谷議員の葬儀に関しては、議会葬という儀式をさせていただいたわけでございますが、非常に二人、素晴らしい議員の先生方が亡くなられたということも、本当に私も悲しい思いしておりますし、そういう先生方お二人の思いを、私もつなげていかなければいけないと、継承していくかなきやいけないと思っております。

(記者) 来年はどのような1年にしたいという思いがありますか。

(議長) 今もそうなんですが、やはり議員の、議会での、議員間の協議、そしてまた、討論も含めていろんなご意見があるということは当然でありますし、そういったところを、議会の中で、議員の先生方としっかりと協議をさせていただいて、この議会運営を進めていかなければいけないという思いであります。簡単でございますが、申し訳ありません。

○ 今年の漢字

(記者) 1年の振り返り、ご質問よかったです。それでしたら、もし今年の一字など、何か過去には一句を用意されてた方もいらっしゃいましたけれども、何かもしご披露いただくものがあれば。

(議長) 私からは、改めてこの1年を振り返りまして、さまざまな出来事があったということでもありますし、誠に多くの経験がありました。その中で、私が選んだ一字は、この「継(けい)」、「継ぐ」であります。いくつか理由を申し上げますと、まずは一つは大阪・関西万博の開催であります。そうした中で、三重が誇る歴史、文化、そしてここわかの精神と伝統的な技を、万博を通じて未来へ継承し、国内外に発信をさせていただいた。これが一つの継続、継承という「継ぐ」でございます。二つ目は、全国豊かな海づくり大会の開催にあたりまして、本大会が三重県で開催された昭和59年以来の41年ぶりであります。ところで、今お話をさせていただきました、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、豊かな海

を守り継ぐ決意を新たにいたしました。また、水産資源の持続可能性、そして漁業者や関係者の熱い思いを次代へ継承する、大変意義深い大会であったと確信しております。三つ目が、今年は戦後80年という大きな節目の年でありました。二度と戦争を繰り返さないという誓い、そして平和な社会の実現に向け、戦争の記憶をしっかりと語り継ぐことの大切さをより深く考えた年であったと思います。そして最後に、大変つらく悲しい出来事がありました。先ほどもお話をさせていただきましたが、現役議員2名のご逝去であります。三谷哲央議員、平畠武議員が、県政に捧げた熱い志と信念を、私たちは決して忘れることなく、その思いをしっかりと引き継ぎ、県民のために全力を尽くしていくかなければならないと改めて強く決意をした年でもございました。このような想いで、私は、「継(けい)」、「継ぐ」という、この一字を選定させていただきました。以上です。

(記者) わかりました。

(記者) この件についてご質問ありますか。よろしいですか。一句などはございませんか。

(議長) 一句はございません。

(記者) 森野副議長はご用意されているものはございませんか。

(副議長) すいません。

—第二県政記者クラブも含めてお願ひします—

○ 2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」について

(記者) ベスト10ですけど、この総得票数が、一般の人と県議が出したやつの合わせた数なんですか。

(議長) 以前はどのような状況であったかは、ちょっと私も確認している状況でございませんけども、前回、何年かぐらい前は、議員の票を掛け算して何倍という、票数をプラスしてたような記憶がございます（注：正しくは、「議員票および県民票それぞれの上位項目を踏まえて選定」）。これちょっと定かではございませんが、今回は、議員の1票も1票であり、県民の皆さん1票も1票であると。当然、価値と同じ、平等な立場にさせていただきました。ですから、県民の皆さん、やはり選ばれるのが優先した形のベスト10であったと。これも確かに、ありがとうございます。

(記者) またさっき他社さんからもちよつとご質問あったように、県民の選ぶものと、県議の選ぶものが違うわけだから、逆に言ったら県議のベスト10、県民の方のベスト10というふうな、二つの発表の仕方もあると思うんですね。できればそれのほうが実用になんか近いような気がするんですけど。その辺は今後の検討でいかがですか。

(議長) 県民の方だけのベスト10、そしてまた、先ほど言わされました議員のベスト10、これもやはりしっかりと発表、今後していくべきかなと考えておりますけども、今後どのような形になるか、まだ決定ではございませんので。今質問されましたこと、非常に大事だと思っております。

(記者) 服部議長はあと1年、というか県議選まで2年あるんで、続投されるかどうか知らないんですけど、仮に来年5月に新しい議長なられるときに、そういうことは引き継がれますか。

(議長) 議会事務局とも協議をさせていただいて、われわれのほうでリーダーシップをとって、変えるものは変える、良いものはそういう形で変えてくれというような状況も必要だと思っておりますので、しっかりと変えたいなと思っております。それと、先ほどあと1年5ヶ月ほどがちょうど私の任期でございますが、2年任期ということで、一番最初に、記者会見の折に、2年にするか1年にするか、これはもう当然、また皆さんと協議をさせていただいて決定をしていくと、1年するのか2年まで任期全うするのかというところも協議をしていきたいとお話をさせていただきました。その折に、この県議選の、地方議会の統一地方選挙において、私もそのときに、1年半、2年後の統一地方選挙はしっかりと出馬をするという思いを述べさせていただいた記憶がございます。しっかりとこれ、まだ1年半、1年5ヶ月ございますけども、前へ進めていきたいと考えておりますので、その点ご理解をいただきますようよろしくお願い申し上げたいと思います。

○ 今年の漢字

(記者) その継ぐっていう字はこれ、森野副議長もこれでOKということですか。

(副議長) いや、議長の。

(記者) 議長だけの判断ですか。

(副議長) そうです。

(記者) わかりました。

(副議長) でも、すごくいいと思います。

(記者) 森野さんのオリジナルはないんですか。

(副議長) 何も考えてないです。申し訳ないです。

○ 11月定例月会議の振り返り

(記者) あとその12月県議会というか11月県議会というか、終わりましたけど、これを振り返って特に議長の印象に残られたことありますか。

(議長) 今回の定例月会議の中での、今のこの最後の本会議ですけども、意見書案のときに、今の日本の国章の損壊の罪というふうな形の制定を国に求める意見書が出ました。そういう中で、実際23対22ということで、否決するという形になったわけでございますが、こうした議員間の意見というものがはつきりと分かれた印象がございます。今まで賛成多数という形で行われてきたわけでございますが、請願にしても何でもそうなんですが、お互いの議員間の中で、皆さんが協議をいただいて、どういう採決をするか、1票の重みというものを非常に感じた本会議がありました。それが一番、今、記憶に残っております。

(記者) ぶっちゃけて言うと西場さんが覆らなかつたら可否同数になったわけですが、その場合議長判断になるじゃないですか。議長判断では、議長はどういう、会派拘束は自民党県議団さんの場合あったんですかね。

(議長) 会派のほうは、私は議長という立場でございますので、今回の意見書のことに関しては22対22に万が一なったときにおいても、実際に現状を変えることができないというところの議長判断を考えておりましたし、実際にまだまだこれからこの状況の中で判断されていくんだろうと思っております。ですから22対22になった場合は、当然現状を変えることはならないと、現状を大事にするというところの考え方からいくと、否決という形になろうかなと。自分でそういうふうに考えておりました。

(記者) だから自民党県議団5人の、議長入れて5人で、4の方が一応賛成されたじゃないですか、意見書出すことに。で議長だけはそこに拘束されないで、仮に議長判断の場合は否決されるという。

(議長) 自民党県議団の、私も会派の一員でございますけども、会派の拘束はし

ておりません。

(記者) 拘束はなしで。

(議長) 自由投票でいこうということで伺っております。もちろん私も会派の会議の中でそういう話は聞いておりますので、実際に自由民主党さんの会派とか、そしてまた草莽さんの会派、新政みえさんの会派、共産党さんいろんなグループの会派の、私は意見がどのように出るのかということで、初めて23対22という形になりましたもんですから、それを心して本会議に臨みました。

○ 県への新年度予算編成に関する会派要望について

(記者) またちょっと場違いかもしれないんですけど、昨日、参政党さんと公明党さん除いては、県の新年度予算編成に要望書出されたじゃないですか、各会派。その中で自民党県議団さんは一応県連の中には、自民党県連には所属するけど、自由民主党と草莽さん連合の要望提出の中には加わらなくて単独でやられたじゃないですか。この意図っていうのは、本来津田さんにお聞きすべきかもしれないんですけど、同じ会派員としてどんな印象をお持ちですか。

(議長) 確かですね、自民党、自由民主党県連という形で、県連じゃない、自由民主党会派というふうなところで中心に、草莽さんも、そしてまた私たちの自民党県議団も、当然要望書の中には入れていただいてると私は思っておりますし、出席はしてなかったですけども、ちょうど自由民主党会派からは、自民党(県議団)会派も同じように同列で入るよということは確認はしたんですけど、ちょっとその辺の要望書を私は見てないんで、表紙を見てないので分からなんですが、ちょっとその辺のところだけは不確かな状況でございます。ですが自民党県議団は自民党県議団で新しく今回5人の会派ができましたものですから、そういった意味で今回は単独ででも要望を提出しようという考えで、団長以下会派のメンバーがそういうふうにお考えをいただいたんだろうと思っておりますので、もうその辺のところ私は、別にお互いの会派が提出するにしても、それはそれでいいんじゃないかなと私は考えております。

(記者) 県議団が自民党県連抜けてるわけではないんですね。

(議長) 全然それはございません。要望書の中に自民党県議団も入っていると私は確認をしておりますので、ちょっとその表紙は見ておりませんので分かりませんが。

(記者) 昨日の夜の当局と自民党3会派の懇親会には、3会派か何かしら分から

ないですけど、そこには県議団も一緒だったんですか。

(議長) 自民党県議団のほうにも出席の依頼がございました。そして、私と野村議員が2人、ちょうど都合が良かったもんですから、出席をさせていただいて、納会のほうにも出席させていただきました。

(記者) あの3県議はお出にならなかつた。

(議長) 都合が悪かったということは聞いております。

(記者) 以上です。

(記者) よろしいですか。それでは以上です。終わります。ありがとうございます。

(議長) よろしいですか。ありがとうございます。今日が、令和7年の最後の議長定例記者会見となります。皆さまには1年間大変お世話になりました。三重県政記者クラブ、第二県政記者クラブの皆さん、良いお年をお迎えいただきたいと思います。来年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

(以上) 10時59分 終了